

安全作業手順書【伸縮装置補修工(セッポル取替)】

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路（豊田IC～春日井IC） 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛鳥北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具	ブレーカー、チッパー、スコップ、ハンマー、ドリル、発電機、サンダー、インパクトレンチ、マグネットポール盤 小型移動式クレーン、清掃用具一式	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ、保護メガネ、 保護マスク、皮手袋、軍手

可能性(A)	見積もり基準をした危険性の評価			
	○ 軽微 (不体と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	×	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
○ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○ (極めて小さい)	△ (かなり小さい)	×	× (中程度)
△たまに起こる (1年に1回程度)	△ (かなり小さい)	△△ (中程度)	×	× (かなり大きい)
×かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	× (中程度)	×△ (かなり大きい)	×	× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現場では必要なし (留意事項)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作業区分	作業手順・作業内容	急所	危険ポイント (～なでの～になる)			リスクの見積り			安全対策 (危険度2以下へ) (私達はどうする)			リスクの再見積り		
			(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク			
準備工	作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割 (運転手、助手) を決める 作業場所及び車線を確認する 交通規制状況を確認する ケーブル近接協議の内容を確認する 使用機械、工具等の点検を行う 小型移動式クレーン及び高所作業車の点検を行う しらすだーの動作確認及び点検を行う 使用材料の安全データシートを確認し、取扱い方法、使用時の防護状況把握し、危険性の周知を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 上下、kp等の情報を踏まえ、作業員全員が理解できるように 必ず当日の規制簿を使用して 証書を伴う場合は協議日を確認して 作業前に 手順書に則り 朝礼時に作業員全員で毎日動作確認をする	手順を間違えて思わぬケガをする	△	×	4	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1				
			免許区分の理解不足で、無免許運転をしてしまう	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両対応を確認する	○	△	2				
			/	/	/	/	/	/	/	/				
			/	/	/	/	/	/	/	/				
			協議承認日より前に作業を行ってしまう	△	×	4	作業日と協議日を照合し、確認を行う 作業前に必ず道具、工具、機械類の点検を行う 刃の可動部、連結部はレンチ等の工具にて緩みがないことを必ず確認し、始動確認を行う。	○	○	1				
			作業中に機械が故障し、思わぬケガをする	△	×	4		○	○	1				
小型移動式クレーン及び高所作業車作業手順書に則る														
			電池切れて緊急時、逃げるのが遅れる	△	×	4	毎日動作確認をし、電池が減ったら交換する	○	○	1				

車両確認 作業車両準備 作業車両点検 出発準備 出発 規制内進入 車両移動 停止 逸走防止	 <h2 style="margin: 0;">セーフティーバイブル</h2>	25.車両回送手順書に則る
---	--	---------------

使用機器等 準備工	車両から必要機械を降ろす	①手袋などを着用して ②手・指が挟まれて気をつける。声かけ、合図をして	①荷台から飛び降りて怪我をする ②手・指が挟まれて怪我をする ネットを張る際に走行車両に接触させてしまう	△	△	3	無理な搬出はせず、サイドカバー・タイヤ等安全な足場から車両に正対して昇降する。 監視員を配置し合図を送りながら慎重に設置する。	○	△	2	
取設ボルト撤去	ボルトシール材を撤去する インパクトレンチでボルトを撤去する	手元に注意して ①保護具の種類に注意して ②車線側では必ず飛散防止ネットを使用し	インパクトに手袋が巻き込まれ指を被災する 飛散防止ネットが強風により倒れ接触を起こす	/	/	/	巻き込まれない保護具、若しくは着用せず撤去する ①飛散防止ネットの四隅にウェイト(30kg程度)を設置する ②作業車両または遮音壁、Gr等構造物にロープで2点固定する(ロープ固定が難しい場合は人力2人以上で押さえる)	/	/	/	
フェースプレート撤去	ボルトが折損した箇所をマグネットポール盤で切り取る プレート持ち上げ用の持ち手を溶接する	巻き込まれに注意して ①重心位置に注意して ②溶接アーク光を直視しないように	/	/	/	/	/	/	/	/	
クレーンを使用しプレートを持ち上げる	クレーンを使用しプレートを持ち上げる	①必ず有資格者を選任して	無資格者がクレーンを操作し、事故を起こす	△	×	4	職長は必ず作業員全員の資格取得状況を把握し、資格所有者は資格証を必ず持参すること 機械監視員を必ず配置し、一定の合図を定め監視する	○	○	1	
		②機械監視者を配置して	クレーンの吊荷が揺れ走行車両に接触する	△	△	3	必ず飛散防止対策を必ず実施してから	○	△	2	
タップ切り	マグネットポール盤を用いて孔明けタップを切る	①ボルトの規格、大きさを確認して ②ネジ穴に対して垂直に	ボルトの規格を間違えネジが合わなくなる 削り屑が目に入り被災する	△	△	3	必ずボルトの規格を間違えしてからタップを切る 使用者、補助者は必ず保護具を使用する	○	○	1	
フェースプレート再設置	ディスクサンダーで裏側、本体接着部を防錆処理を行う プレート接着面に接着剤を塗布する クレーンを使用しプレートを持ち上げ再設置を行う	必ず保護具を着用して 塗りにすぎに注意して ①必ず有資格者を選任して ②機械監視者を配置して	屑が目に入り被災する 気化した有機溶剤を吸引し被災する 無資格者がクレーンを操作し、事故を起こす クレーンの吊荷が揺れ走行車両に接触する	△	×	4	使用者、補助者は必ず保護具を使用する 職長は必ず作業員全員の資格取得状況を把握し、資格所有者は資格証を必ず持参すること 機械監視員を必ず配置し、一定の合図を定め監視する	○	○	1	
ボルト繰上げ	新規高力ボルトで繰上げる	手指の巻き込まれに注意して	/	/	/	/	/	/	/	/	
仕上げ	発生材や道具を片付ける 清掃道具で場内清掃を行う 場内状況及び清掃状況を確認する	車線側、他の作業員等十分周間に注意して 車線側への飛散に十分気を付けて 使用道具や、検測道具など忘れ物の無いように	片付け作業やクレーン操作作業が重複し作業員同士や、クレーンとの接触を起こす 掃き掃除やブローア使用の際、走行車に気づかず清掃物が飛散し、接触する	△	△	3	職長は必ず場内全体を監視し、全体の動きを指示しながら片付けを行う 職長は必ず場内全体を監視し、警音等を用いて合図をしながら清掃する	○	○	1	
現場離脱 掃き・駐車	25.車両回送手順書に則る										
後処理	運転日報・車両使用日報を作成する	責任者への報告・確認も忘れずに	/	/	/	/	/	/	/	/	

1人作業	原則1人作業はしない。やむ終えず1人作業をする場合は現地にてKYを実施し、作業員同士目のつく範囲内で作業を行う。尚且つもしもの時の連絡体制を事前に構築しておく。		/	/	/	/	/	/	/	/
パワーゲートを使用した荷台積み下ろし	パワーゲートを使い荷台にバルーン等を積み下ろし作業をする時は、積載物の落下またはゲート昇降による手の挟まれ、スライダバーの延伸による足挟まれに注意すること	①パワーゲートを昇降させるときは必ず声を掛け合図を行い、手・足が挟まれないことを確認し安全を確保してから昇降させる。 ②バルーン等のタイロックスを外す時は、必ず声を掛け合図を行い、保持を確認して安全を確保してからロックを外すこと	声掛け合図を怠り、積載物またはゲートに手足をはさまれて怪我をする	○	×	3	パワーゲートを使用する際は必ず2人以上で作業をし、ゲートの昇降をする場合は声を掛け合い挟まれないように安全を確保してから昇降させる。	○	○	1
台車を使用する場合	台車を使い小運搬を行う時は、台車の逸走による車両等への接触に注意すること	台車は自動ストッパー機能付とする	台車から離れた瞬間に台車が逸走し走行車両と接触する	△	△	3	使用しない時は裏向きにし、Gr外側など走行車両から遠い位置に仮置き。強風の場合はウェイトを置く。	○	○	1